

ほのぼの



手拍子と歌声響くファミリーコンサート

12月10日(日)、わろうべの里(わろうべんぐホール)にて、音楽療法士の三瓶あずささん、佐藤未央さんをお招きして、ファミリーコンサートを開催しました。

コンサートと言っても、静かに座って音楽を聴くだけではありません。ピアノの伴奏に合わせて、皆で手を叩いたり、鳴り物を使ったり、歌ったり、踊ったりと、身体中で音楽を感じることでできるプログラムです。

子どもたちがリーダーとなって皆の前に立ち、声を出したりポーズを取ったりする場面では、元気な子も恥ずかしがる子も、三瓶さんの優しい指導を受けながら、頑張っ て発表することができました。その時に受けた拍手が、子どもたちの中で心地よく響いていたらいいなと思います。

講師のお二人によるピアノの連弾、クリスマスメドレーでは、この季節ならではのワクワク感と厳かさを堪能できました。

やっぱり音は楽しい！参加してくれた子どもたちが、これからも音楽に親しみ、豊かな感性を育てていきますように。

(記/中川 綾)



みんなで踊ろう



みんなで歌おう

楽しかった4年ぶりのグラウンドゴルフ

11月23日(祝・木)に和良比小学校グラウンドにおいて、四中地区社協グラウンドゴルフ親睦会を開催しました。

当日、天候にも恵まれ、総勢76名のご参加をいただき、また、ご多用のところ来賓として鈴木市長、清宮市議会議員からご挨拶並びに応援をいただき、しっかりと準備運動を行い競技をスタートしました。

午前中に2ラウンド16ホールをプレイしました。スタート前には参加者から「久しぶりだから大丈夫かな」「足や腰の調子が」などと不安の声が聞かれましたが、いざ競技が始まると先ほどの言葉はどこに行ったのか、夢中にプレイしていたことに驚きでした。

参加者の中で唯一の小学生 Y 君が駆け足で元気よくプレイしていました。参加した理由を尋ねたところ「自治会活動でプレイしてとても楽しかった」ので今回参加したとのことでした。

コロナ禍等により4年ぶりに開催され、地域の皆様との楽しい親睦会の一日でした。(記/川島)



プレイ中のY君



バーディーショット?

ご寄付ありがとうございました(令和5年10月~12月迄)

四中地区社協の活動をご支援くださりありがとうございます。
地域福祉活動に活用させていただきます。

秋草産婦人科・藤原小児科医院(子ども食堂へ) 30,000円
ふれあい交流会募金 1,401円
合計 31,401円



*寄付は所得税控除の対象になります。詳しくは四中地区社協事務局まで
問い合わせください。電話 070-1537-5827

ご参加お待ちしております

みんなの料理教室開催のお知らせ
令和6年2月7日(水)わろうべの里、
食のスタジオでみんなの料理教室を開催
します。お菓子を作って持ち帰っていただ
く予定です。地域サロンでも人気の男性講
師ですので、お父さん方もぜひ参加してい
ただけたらと思います。

ふれあい落語会開催のお知らせ
令和6年3月3日(日)わろうべの里、
多目的ホールで桂文雀師匠をお招きして
ふれあい落語会を開催いたします。師匠は
幼少期を四街道市で過ごされた方です。こ
れまでも毎年異なる演目で大人気の落語
会です。

*問合せ先：四中地区社協事務局 電話 070-1537-5827

四中地区社協の事業予定(1月~3月)



事業名	月日	場所
みんなの料理教室	2月7日(水)	わろうべの里
友愛訪問	2月中旬~下旬	民生・児童委員が対象者宅訪問
ふれあい落語会	3月3日(日)	わろうべの里
理事会	3月24日(日)	わろうべの里
こどもクッキング	3月27日(水)	わろうべの里

上記の他、ほのぼのサロンは毎月第2・4水曜日、ふれ愛サロンは毎月第2・4
金曜日、いちごサロンは毎月第4木曜日、ほのぼの学習広場は毎週木曜日、ほのぼ
のテーブルは毎月第2・4土曜日に開催しています。

広報部員のつぶやき

今年は、コロナがインフルエンザと同等診療となり、マスクは任意装着で、平常生活・活動になり活発化してきています。夏場は猛暑酷暑で夏休み明けに学校閉鎖・学級閉鎖が急増しましたが、四中地区はインフルエンザによる学級閉鎖で持ちこたえています。元気な子供に負けずにと毎回【ほのぼの】編集企画会議では新米編集委員の脳は熱くなっていますが、もっと面白い紙面にするため皆様にお願ひ、情報・企画・アイデア有りましたら是非、気軽に当地区社協にお声掛けして下さい。(記/竹内)

こんにちは！ 民生委員・児童委員です ⑳

～委嘱されて1年経過しました～

民生委員・児童委員の任期は3年間です。2022年12月に委嘱状をいただき1年が過ぎました。

毎月の定例会では報告・事例検討を行っていますが、この機会に民生委員・児童委員になってみてどうだったか聞いてみました。

♪民生委員になってから、さまざまな研修を受けた。よく知らなかった介護保険のことなどの冊子もいただき、自分の勉強になった。自分の為になっていると感じた。

♪近くにママ友はいても、地域の人たちを知らなかった。地域サロンで、おばあちゃんとお会いしたりして「こんにちは」とあいさつする人が増えた。普段は友だちにならないような人たちとも知り合いになれた。

♪民生委員・児童委員ではあるが、子育てを終わると子どもとの接点がない。児童委員としては学校との関りが重要になると思った。

♪児童や高齢者と接して関心を持つようになった。年4回の友愛訪問だけではなく、日常적인見守りになっており、子どもたちもあいさつしてくれるようになった。

人とのつながりが民生委員・児童委員としてやっていく上での魅力になっているようです。(記/木村)



新人民生委員物語

志津美佳子 最終回

私が民生委員を引き受けるきっかけの1つは、当時プレイしていたゲームでした。



ゲームの主人公は田舎街の少女。住民は全て顔見知りで、いろいろな話を聞きます。



話を聞くことで橋渡しとなり、問題解決につながる事も。



その時の感動が私の背中を押し受けに繋がったように思えるのです。



わろうべ祭りに「子どもの八百屋さん」出店

11月25日（土）に開催された「令和5年度わろうべ祭り」に四中地区社協も「子どもの八百屋さん」で参加しました。

少し大きめのエプロンを着た男の子の大きな掛け声。「いらっしゃい！いらっしゃあ～い！」「安いよ！安いよお～！」「新鮮な野菜ありますよお～！」

この開店の掛け声を合図に地元の方々の長い行列が一気に動き出します。時刻はジャスト10時。「あらあ安いよね」「これは何芋かしら？」「これとこれとこれをくださいね、いくら？」

開店と同時に“子どもの八百屋さん”は大忙しで、集まった5人のちびっ子たちの目とはとにかく真剣です。さらに、お手伝い頂いている大人の方々も動きが激しくなります。

“元気なかけごえ” 恥ずかし気な“小さなかけごえ” 野菜が売れた時の子供たちの笑顔・笑顔・笑顔。小さかった掛け声がいつの間にか“大きなかけごえ”に。持ち込んだ野菜ははやばやと完売し、恥ずかしがり屋さんとも「やったあ！」のハイタッチ。

今年もまた子どもたちに元気を、地域の方々には優しさをいっぱいもらいました。



お買い上げありがとうございます



新鮮な野菜ありますよお～！

地域の社会福祉活動は、コロナが来ようが、災害が来ようが、高齢化の波が来ようが、何が来ようとも止めるわけにはいきません。「継続は力なり！」と一緒に続けましょう。

（記／美しが丘 星 正文）

和良比はだか祭りで無病息災を願う

このお祭りは、「はだか祭り」で知られ、無病息災、五穀豊穡及び子どもたちの健やかな成長を祈り和良比地区の皇産霊神社（みむすびじんじゃ）で開催されている伝統行事です。

この祭りの開催は、毎年2月25日に行なわれ、豊作を祈願する神事が社殿で始まり、裸衆祭礼、神田（しんでん）でしめ縄の藁（わら）を稲に見立て「田植え」をします。

また、幼児祭礼では、この日に備えて着飾った満一歳未満の幼児を裸衆が抱え、神田（しんでん）にて額に泥を塗ってもらうと厄除け（病気をしない）になると伝わっています。

昔は伝染病などが発生すると、社殿にある「ろくふ」を地区の年寄りが負い、患家に行って厄病神にお戻り願う習慣がありました。

はだか祭りは、ここ数年コロナ禍により神社の役員関係者により神事のみ執り行われていましたが、今年裸衆の参加をいただき「はだか祭り」が盛大に行われることを切に願っているところです。（記／川島）



赤ちゃんの額に泥を塗り厄除け



模擬田植え後豊作を願い万歳